

川下りの終着点にほど近い、「柳川藩主立花邸御花」。

元文3年(1738)、柳川藩五代藩主、立花貞俣公(たてはな せいゑ)が柳川城の南西隅に、二の丸から建物を移築します。政務を司る本丸御殿とは別に建てられた別邸御花島。これが、今の御花であり、庭とともに「立花氏庭園」として、国の名勝に指定された空間です。

大広間の開け放たれた窓が切り取る黒松の緑。

座敷から眺める鑑賞式の庭園「松濤園」(しょうとうえん)は、約280本の黒松に1500個の庭石、石灯笼14基が配され、2つの島と多数の岩島が浮かぶ水面は、冬には飛来する野鴨が群れ遊びます。

藩主一族の暮らしを今に

元和6年(1620)から明治4年(1871)の永きに渡り、こ

の地を治めた立花家。

「立花家史料館」には、歴代藩主の甲冑に、華やかな婚礼調度や夫人の装束・装身具、そして藩主愛用の茶道具、能面・能装束など、立花家の歴史を彩る大名道具の数々が飾られています。

中でも、江戸中期より受け継がれる代々の雛人形とその調度の数々は、本物と変わらぬ繊細な細工と種類の多さに感嘆の声があがります。それらを使って遊んでいた歴代のお姫様の暮らしに思いを馳せる、楽しみ多い史料館です。

雛人形のお道具のなんと細やかなこと。

受け継がれる建築と庭。

ここは、暮らしを愛おしんだ

立花家の別邸でした。



御花ホームページ



1 初代柳川藩主、立花宗茂公肖像。2 立花宗茂公所用(金地三日月図軍扇) / 3 江戸時代後期の有職雛と雛調度 / 4 立花家史料館 / 5 立花宗茂公着用の甲冑「伊子札縫延栗色革包仏丸胴具足」 / 6 明治43年(1910)に迎賓館として建てられた西洋館

